

ケアラー支援の充実を

ほっとあんしんダイヤル委託費 225万7,000円

「ほっとあんしんダイヤル」は、高齢者を介護する人だけでなく、障がいのある子どもを育てる方やヤングケアラー、医療的ケア児を育てる方など、ケアをする人たちのための相談窓口として2022年10月に開設されました。2022年度は64件、2023年度は167件の相談を受けていますが、多くは高齢者を介護している人からです。

私は地域で「障がい児を育てているが、体調が悪くても頼れる家族も預け先も見つからず途方に暮れている」「がん終末期の家族を退院させて自宅で看たいが、世話は自分たちに可能だろうか」などの相談を受けています。障がい者の家族や医療的ケア児の家族は、

人の手を借りるのに抵抗を感じたり、相談先やサポートが少なく頑張らざるをえない状況に置かれ、悩みを抱えがちです。また、ヤングケアラーについては本人や周囲にケアラーとしての自覚がない場合が多く、支援につながる事が難しい存在です。

ケアラー支援に関する区のパンフレットやホームページはイラストや写真が高齢者をモデルにしたものになっており、高齢者を介護する人に向けた印象がとても強い。そのため、周知の方法について高齢者を介護する人以外にも届く工夫を要望しました。相談窓口の周知の工夫とともに、誰もがその人らしく安心して暮らせるよう、ケアラー支援の充実を継続して求めていきます。

**インクルーシブな社会は
インクルーシブな公園から**

新宿交通公園整備経費 1,310万円
(今年度分は基本設計委託費として)

区民に親しまれている新宿交通公園について、トミカやプラレールの世界観をちりばめた交通公園を目指すという整備計画が示されました。オープンは2029年度を予定。障がいの有無に関わらず、子どもたちが安全に遊べるインクルーシブ公園の整備を求め、区に質問したところ、広さや駐車場の問題もあるため何ができるか検討する、との回答でした。

インクルーシブ公園はインクルーシブ遊具を導入すればいいというわけではなく、次の取り組みが必要です。

- ①構想の段階から多様な利用者の参加、地域の連携のもとに整備すること
- ②ユニバーサルデザインの視点で整備すること
- ③多くの人々が自由に利用できるようにするための運営管理や情報発信

東京都では「だれもが遊べる児童遊具広場」整備ガイドラインを策定しており、インクルーシブ公園の整備についてわかりやすくまとめられています。あらゆる子どもが互いの違いを理解し、ともに遊べる公園を葛飾区にもつくるべきです。

**一人ひとりができることから、
ごみをつくらない、ださない行動を**

**ごみ発生抑制行動促進経費
2,725万6,000円**

資源とごみの収集カレンダー経費
かつしかルール推進・ごみ減量・3R等普及啓発経費
生ごみ処理機等購入助成費など

ごみを分別し適正処理により資源とすることも大切ですが、それ以前にごみをつくりださないことが必要です。日本の1人あたりのプラスチック容器包装の廃棄量は年間32kgで、アメリカに次ぐ世界第2位(国連環境計画2018年報告書)。とても残念なことです。

そこで、世界や日本の各地で行われている活動を参考にしながら、使い捨て飲料容器の使用を減らし水道水の飲用をすすめて環境負荷の低減を促進する運動を葛飾でも行うことを提案しました。

そして、ごみをださない暮らしが広がるよう、庁舎内のウォータースポットのような、マイボトルに無料で給水できる場所の普及啓発を求めました。

さらに、紙1枚の報告でも議員に使用される新しい封筒や、区の各種イベントで配布されるノベルティや印刷物の必要性についても問題提起を行いました。

当事者の声を生かしたより良い子育て支援を

産後家事・育児支援事業経費 1,327万9,000円

子育てする人を支えることを考えたとき、育児支援と家事支援は切り離せません。子育ての場面では、家事と育児を分けられない柔軟なサポートが求められており、それが可能な「産後ドゥーラ」※による支援を昨年の予算委員会でも要望したところ、2023年度途中より、子育て家庭家事サポーター派遣事業において産後ドゥーラの支援も受けられるようになりました。

この事業は当初多胎児支援として始まり、利用対象は多胎児養育世帯に限られていましたが、対象が多胎児以外の養育世帯にも拡大されたことで、利用者は2022年の11名(102時間)から、2023年は132名(1,560時間)に増えました。

※産後ドゥーラ：一般社団法人ドゥーラ協会から認定を受けた産前産後の女性特有のニーズに対しサポートするための知識と技術をもつ専門家。家事も育児も心配ごとまるごと相談することができる。

利用したママたちからは「ドゥーラさんが頼もしく、育児中に訪れた天国のような時間だった」「心身ともに限界のときに利用して助かった」などと喜びの声を聞いており、育児負担の軽減につながっていることがわかります。一方で「希望の日程で見つからなくて利用できなかった」という声もあります。

また、利用者側からの過剰サービスの要求やカスタマーハラスメント等のトラブルを防ぐためにも、サービス提供事業者の意見も参考にし対応することが必要です。利用者、事業者双方の意見を聞きながら、より良い事業になるよう支援内容の一層の充実を求めました。



生活の中で感じる疑問・困難、こんなまちにしたいというご提案などご自由にお書きください。

WEBフォームからも回答いただけます

夫と息子の3人家族 葛飾区新宿在住 ◆ **沼田たか子のプロフィール**

1976年 新潟県吉田町(現:燕市)生まれ。新潟大学医療技術短期大学部看護学科卒業。日本医科大学付属病院、新潟大学附属病院に勤務。結婚後、訪問看護師として働く。2011年 聖徳大学人文学部心理学科卒業。生活クラブ生協加入。2013年 葛飾区新宿に転居。子育てをしながら、生活クラブ生協まちかつしかの運営委員として活動。2017年より区内の訪問看護ステーションに勤務。2021年 葛飾区議会議員選挙初当選(文教委員会、区民サービス向上対策特別委員会に所属) 2023年10月より保健福祉委員会、危機管理対策特別委員会に所属

- 資格：看護師、介護支援専門員、心理相談員
- 趣味：庭いじり、ヨガ



お手数ですが63円切手を貼付のうえ投函ください

1250054

東京都葛飾区高砂8-21-1
沼田たか子 行

よろしければご記入ください ◆ ◆ ◆

お名前： _____

ご住所： _____

電話番号： _____

メールアドレス： _____